

センバツでも切磋琢磨

兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で18日開幕する第96回選抜高校野球大会(センバツ)に、東北地区代表として同時出場を果たす青森県勢の八戸学院光星と青森山田。両校には中学時代、同じチームで刺激し合い、切磋琢磨してきた青森市出身の2人がいる。光星の三塁

手三上祥司選手(17)と、青森山田のエース関浩一郎投手(17)だ。三上選手が「自分の中ではライバルだと思っている」と話すなど、互いに強く意識。両校が甲子園で戦うには、決勝まで勝ち上がらなければならないが、夢舞台での対決を心待ちにしている。(千葉達也)



打撃練習に取り組む八戸学院光星高の三上祥司選手=3月上旬、八戸市

青森市のリトルシニアでチームメイト

2人は中学校が異なるものの、青森市の「青森戸山リトルシニア」で3年間、仲の良いチームメイトとして一緒に腕を磨いた。三上選手は遊撃手、関投手は主戦として活躍した。練習では何度も真剣勝負を繰り返した。関投手は祥

光星・三上選手と青森山田・関投手

「互いに勝ち上がり対決したい」

司に打たれっ放し。抑えたことは少なかつた」と懐かしそうに振り返る。2人は中学3年の時、進学の高校について語り合ったという。三上選手は「小さい頃からの憧れだった」と、光星への進学を希望。関投手は「県内で一番、プロを目指せる環境が整っている高校に行きたい」と青森山田を選んだ。

「一緒に野球をしよう」と三上選手が誘ったこともあったが、関投手の意志は固かった。「俺は青森山田に行つて、絶対に光星を倒すから」

両校は高校野球界でもよく知られたライバル関係。2人は別々の道を歩み始めたが、その後も電話やメッセージでのやりとりは続いた。たわいもない会話に花を咲かせたり、試合結果を伝え合ったりした。

それぞれがチームの中心選手に成長して迎えた2023年秋。両校は県大会決勝に続き、東北大会の決勝でも激突し、いずれも青森山田に軍配が上がった。

関投手が光星打線を相手に投げたのは、県大会決勝の終盤のみ。三上選手に打

席は回らなかった。高校の公式戦で、2人の直接対決はまだ実現していない。東北大会の対戦から2カ月後。2人は年末年始に、青森市内で直接会う機会があった。三上選手は「関に『(東北大会で)全然打てなかったな』と言われてしまった」と苦笑いする。センバツでは互いに勝ち上がり、決勝でのみ戦う可能性がある。元チームメイトの2人は、甲子園の頂上決戦で相まみえるシーンを夢に描く。

三上選手は「あいつにだけは負けたくないと思って今までやってきた。打席に立つことがあれば、絶対に打つ」と闘争心をたぎらせる。関投手も「互いに勝ち上がり、甲子園で対決したい」と静かに意欲を燃やしている。